

突然ですが、皆さんの家には“庭”がありますか？
その庭に“石”はありますか？ もしあったなら、その石はどんな表情をして、何に見えるでしょう？

実は昔の日本の庭は、この石が主役だったので。そして、庭をつくる人たちは、1つ1つ違う石の表情をよく観察して、石で色んなものを表現していました。

例えば、今から1300年くらいも前につくられた日本で最も古いタイプの庭を見ても、水際に尖った形の石をうまく使って、まるで強い波であらわれた海辺の磯の風景のようです（写真1）。また、比較的新しい庭ですが、子犬たちがたわむれる様子をイメージしながらつくったという庭の石もあります（写真2）。

このように、庭をつくる人たちは、大昔から石をたくみに操って、大自然の風景や思想、その場にふさわしい情景などを表現し、見る人を楽しませたり落ち着かせてくれたりします。その石を扱うワザには、自然への深い愛情と、日本人ならではの繊細な美意識を感じずにはられません。

大平和弘（自然・環境マネジメント研究部）



写真1 海辺の荒々しい磯の風景のような石



写真2 お母さん犬と仲良し子犬たちの石でしょうか？

トピックス

新入館員 自己紹介



自然・環境評価研究部
地域環境地質研究グループ

菊池 直樹

貝化石と堆積学を担当します。オオハネガイやシジミガイなどの化石を研究していますが、地層の情報を使って、化石となった生物の生態を明らかにしようとしています。これからは兵庫県地層と化石について研究を行っていきたく思います。よろしくお願いいたします。



自然・環境マネジメント研究部
動物共生研究グループ

高木 俊

大学時代は森の中でシカ植物-チョウの三者関係、卒業後は湖沼や砂浜でクモと昆虫の研究をしていました。生き物同士や人と生き物のつながりを知ること、人と自然のより良い関係づくりに貢献できたらと思います。よろしくお願いいたします。



自然・環境評価研究部
昆虫共生系研究グループ

山内 健生

前職の衛生研究所では、衛生・不快害虫（マダニや蚊など）の研究をしていました。近年マダニが巷を騒がしているため、この分野の仕事がはからずも激増中です。ひとはくでは、動物分類学の研究を進めつつ、博物館収蔵標本のさらなる充実を目指したいと思います。



自然・環境マネジメント研究部
流域生態研究グループ

和田 年史

兵庫県西宮市で生まれ育ち、長崎大学で海洋生物学を学んだ後、鳥取県立博物館の学芸員を経て“ひとはく”にやってきました。瀬戸内海と日本海にくらす多様な海洋生物を調べて、地域の沿岸環境や生態系の保全に貢献していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

ひとはく通信

ハーモニー

85

Jun. 2014



収蔵コレクション展
特集 ゾルンホーフェンの化石

シュードリナ（出現初期のカスザメ類）の化石